

学術知共創プログラム

- ◆課題：「将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方」
- ◆研究テーマ：「コロナ危機から見る政策形成過程における専門家のあり方」

研究期間：R5.7～R11.3
 委託費総額：111,540千円

<研究代表者>

氏名：大阪大学感染症総合教育研究拠点



特任教授(常勤) 大竹 文雄

<専門分野>

行動経済学、労働経済学

<Webページ>

<https://researchmap.jp/ohtake>

<研究目的・概要>

<研究目的>

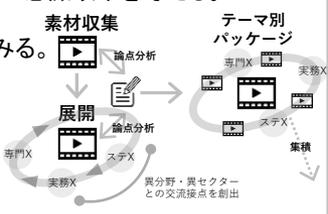
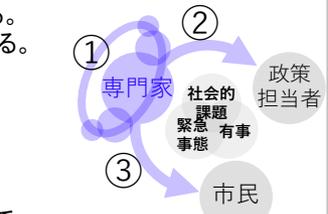
- ・コロナ危機で顕在化した緊急事態や有事などに対応できる知のあり方を考える。
- ・新型コロナウイルス感染症の経緯を振り返り、将来に備える。
- ・異なる価値観のもとにおける集団的意思決定について考える。
- ・共創的人文学社会科学のモデルを提示する。

<研究概要>

- ・コロナ危機を具体的事例として、専門家-専門家(①)、専門家-政策担当者(②)、専門家-市民(③)、それぞれについて、共創的人文社会科学の基盤構築とモデル形成を経て研究者の意識改革を考える。

<研究アプローチ>

- ・「素材収集-展開-テーマ別パッケージ」による知見集積を試みる。
- 素材：コロナ危機における具体的事象を当事者・関係者へのインタビュー
- 展開：収集した素材について異分野・異セクターの視座・捉え方を収集する
- テーマ別パッケージ：素材-展開による多角的知見を集積する
- ・「素材収集-展開-テーマ別パッケージ」の活動において得られる人的交流を丁寧にフォローアップし、平時よりネットワークを意識することができる文化を形成する。
- ・異分野・異セクターが日常的に集うワークショップやシンポジウムを企画する。



<目標>

- ・平時における学際的・セクター横断的ネットワークを形成する。
- ・ネットワークからの展開と発信を通じて学会間交流や研究者個人の意識変革へ接続し、緊急事態や有事における組織的対応の土壌を形成する。
- ・有事・緊急事態において専門知を最大限活用しうる共同拠点のような機能を構想する。

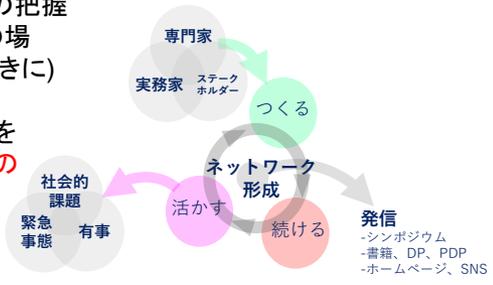
<研究計画の特徴>

- ・前身となる、文部科学省委託事業・学術知共創プロジェクトにおいて、異分野・異セクターが交錯する場づくりを設計してきた。本研究では、これまでに得た実験的な手法を踏襲し、コロナ危機を例に実践の最前線で関わってきた専門家・実務家を対象に、対談やインタビューという手法で、固有の思考方法・価値観・視座を明らかにし、多角的に論点展開することで多層的な階層から論点分析を行う。
- ・多角的な展開を経て獲得される人的交流を丁寧にフォローすることでネットワークを固り、プログラムからのみならず、類似の研究課題との連携を含めて発信そのものを、点から線・面と昇華することに努めていく。



<目標とする研究成果>

- 1) 平時における学際的・セクター横断的ネットワークを形成する。
→思考方法、学術文化、価値観等の交錯する場を継続的に運営する。
- 2) ネットワークからの展開と発信を通じて学会間交流や研究者個人の意識変革へ接続し、緊急事態や有事における組織的対応の土壌を形成する。
→専門家のスキル・興味・関心の把握
→学会内・学会間の情報交換の場
(現状把握・課題探索を経て動きに)



- 3) 有事・緊急事態において専門知を最大限活用しうる横断的共同拠点のような機能を構想する。
→EIPM(Evidenced Informed Policy Making)の実装

<将来展望>

- 1) 継続的な学際的・セクター横断的ネットワークを形成母体を創出する。
- 2) 研究者個人のネットワーキングにとどまらず組織的連携・交流の土壌を形成する。
- 3) 専門知を最大限活用しうる共同拠点のような機能集団の構想へ接続させる。